

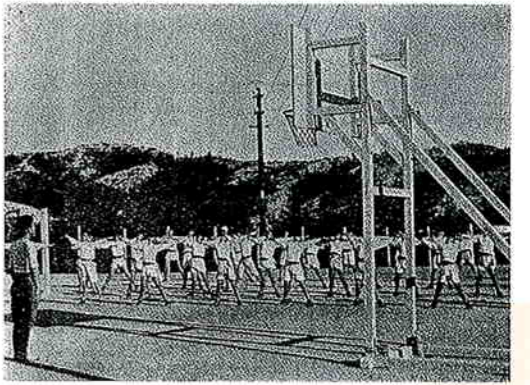
明治・大正編
全三期・全28巻
完結

監修・鮎川潤

戦前期 少年犯罪 基本文献集

少年犯罪に対する認識を
再検証する！

戦前期において、少年犯罪は
どのように語られ扱われてきたのか？
少年犯罪・少年非行に関する重要文献を
精選・集成した、はじめてのシリーズ！



戦前期少年犯罪基本文献集を 推薦します



戦前期少年犯罪基本文献集

少年犯罪基本文献集

日本少年犯罪学

斎藤義房

(元日本弁護士連合会子どもの権利委員長・弁護士)

少年法の「改正」が続いている。二〇〇七年には刑罰化・厳罰化がすすみ、二〇〇八年には児童福祉への警察の介入が拡大し、二〇〇八年には被害者への配慮の名のもとに少年の成長発達権保障が後退した。

非行少年の更生には、罰よりも、非行の要因に対する福祉・医療・教育的手当と支援が重要である。それこそが再非行を防止し社会の安全と利益につながる。

かつて私は、穂積陳重博士が明治四〇年に行った講演の記録「米國ニ於ケル小供裁判所」を読んで感動した。いわく、「小供裁判所の審判は……謂ハ、小供ノ悪行ノ為メニ親ヲ罰スル様ナモノデ、小供裁判所ノ被告人ハ、両親又ハ後見人デアアル、小供ハ責任者デハナイ、小供ガ不良少年ニ為ツタノデハナク、親ガ小供ヲ不良少年ニシタノデアアル」

明治・大正期の先駆者の情熱と理論を学び、少年司法創設の原点を検証し、いま一度、新たな地平を切り拓く運動が求められていると思う。

明治・大正の先駆者の情熱と理論に学ぶ

森田洋司

(大阪樟蔭女子大学学長)

今日では、少年犯罪についての報道が身近にあふれ、凶悪化の声も一部で形成されている。しかし、その根拠はどこにあるのか、そもそもなぜこのような犯罪が起きるのか、私たちのこれまでの社会のあり方と対応はこれで良かったのかなど、いま改めて少年犯罪の根底に潜む問題を見直し、その歴史を紐解き、これからの少年たちへの対応策をこれほど根本的に検討し直すことが求められている時代はない。

旧少年法の誕生等、少年犯罪を語るうえで極めて重要な時期といえる近代期に焦点を絞り、少年犯罪、少年司法、少年保護に関わる全領域を可能な限りカバーし復刻した、貴重な文献と関係機関の資料を提供する本文献集には、現代の少年犯罪を捉えるヒントが数多く詰まっている。制度の改変、社会状況の変化を経て、少年犯罪への社会的対応はどのような変遷を見せたのか。実に幅広い視点を提供する収録内容によって、まさに時代と集団、および人間と社会が交錯しあう問題として少年犯罪を多角的に捉えることが可能になったといえよう。今後の制度や対策を再考するための格好の資料として、

研究者や専門家をはじめ、大学図書館、公共図書館など、多くの関連機関にぜひ揃えていただきたい。

少年犯罪を多角的に捉える格好の資料として

浜田寿美男

(奈良女子大学教授)

いまほど少年犯罪が世間から注目されている時代はない。しかし一方で、いまほど少年犯罪が世間から理解されていない時代はないかもしれない。そのギャップはどこに由来するのか。情報媒体がかつてないほど肥大した現在、少年犯罪が注目されればされるほど、マスコミは過剰な報道に走る。そしてその結果、犯行の残忍さばかりが強調されて、犯罪にはまり込んでしまった少年たちのありのままの姿を見失う。いま私たちがしなければならないのは、少年犯罪の現実をその大きさのままに見ること。そのためには少年たちの犯罪をその時代のなかにおいて見つめ直さなければならぬ。『戦前期少年犯罪基本文献集』はその意味で貴重な資料である。少年犯罪は時代を映す。その時代を読み解き、その時代を生きる少年たちの姿を浮かび上がらせることができれば、いまリアルタイムで生起している少年たちの犯罪を真の意味で理解する道が開かれるはずだ。

少年犯罪は時代を映す——時代を読み解き、少年たちの姿を見つめるために

山口幸男

(日本福祉大学名誉教授)

小河滋次郎『獄務要書』(明治三二年)が犯罪者処遇での「教養感化」の重要性を力説し、エレン・ケイ『二十世紀は児童の世界』(明治三九年・大村仁太郎解説)が新しい児童観を提唱する等、未成年者「処遇」が注目されるなかで、大正一二年に(旧)少年法が施行された。昭和元年にはフェリー『実証派犯罪学』(浅野研眞訳)で犯罪・非行を「社会の正規的現象」と見ることの重要性が注目されたが、我が国における青少年の反社会的行為への社会的・教育的対処は、多くの実践者の努力にも関わらず完全開花することはなかった。その開花条件を整え始めたのは、戦前の反省に立って未成年者の権利に注目した戦後の少年法(昭和二三年法律第一六八号)の許であった。こうして、少年犯罪(者)対策の歴史は未成年者の国家的教化克服とその揺り返しの歴史であり、いま先人の諸経験・創意と努力に学び、施策の本質を把握し対応することが望まれている。『戦前期少年犯罪基本文献集』が、その一つの手掛かりとなることを期待する。

未成年犯罪者への社会的対応を更に前進させるために

少年犯罪と「先人の苦闘」

松尾浩也

(東京大学名誉教授)

明治から大正を経て昭和二〇年に至る「戦前期」を対象として、「少年犯罪」に関する基本文献集が刊行されることになった。高瀬貞卿の『感化修身談』に始まり、少年法全国施行記念『少年保護論集』で結ばれる全四巻は、少年犯罪の問題と取り組んだ先人の苦闘を伝えて余すところがない。原胤昭、留岡幸助、小河滋次郎と続く著者たちは、日本の少年問題を強力に牽引した大人物である。

戦前の文献に現れる用語は、感化院や少年犯罪や不良少年で、児童自立支援施設、国親思想、触法少年などという現代のタームとは違っている。確かに時代は変化し、法制も一変した。しかし、眼に見えぬところを流れている地下の水脈は、明治から平成まで、しっかりとつながっているのではあるまいか。

少年法の母国とされたアメリカで少年裁判所の衰弱が語られることと対比するとき、日本の家庭裁判所の健在ぶり、この水脈の力を感じさせずには置かない。温故知新の語は、この場合にもよく当てはまるように思われるのである。



刊行のことば

鮎川 潤

関西学院大学教授

「温故知新」——少年犯罪・少年非行に関する分野ほど、このことばが当てはまるものを知らない。子どもたちは成長する。大人はやがて彼らに社会を託さざるを得ない。しかし、未来は常に不確定的であり、不安を感じる。次の世代は正しく成長しているのか、今後の社会を担うにふさわしいか。大人たちは子どものどのような行動に不安を感じ、どのような行動を問題があると考え、どのような社会的対応を取ってきたのか。それがこの文献集に集約されている。

この文献集では、犯罪を行った少年の「告白」を含めて、その声を可能な限り収録するように努めた。彼らへ対応する人たちも、第一線の警察官から、検察官、少年審判所審判官、感化院・少年保護施設の職員関係者、司法省の重要人物の著作までを広くカバーしている。さらに、幼年監、矯正院、少年刑務所、保護観察の資料——戦前について考察するうえでは欠かせないにもかかわらず、現在に至るまで見落とされてきた「外地」の資料を含む——を収録し、少年犯罪・少年司法・少年保護の全領域を網羅した。

戦後、凶悪な少年犯罪が起き、それが集中的に報道されて社会的注目を集め、少年犯罪全体に対する法的対応が大きく変化することも起きた。大人たちは自分たちが子どもであった時代にはなかった凶悪な犯罪を最近の子どもたちは行うようになったと考え、行政あるいは立法において新たな方策や制度が設けられる。しかし、そもそもそうした少年犯罪に関する認識は正しいのだろうか。さらに新たな施策や制度はほんとうに「新しい」のだろうか。戦前にも同様の制度があり、それが復活しただけではないのか。そうした発見や、問いに対する答えがこの文献集にはいくつも盛り込まれている。

大学図書館はもとより、どの公立図書館にも所蔵されていない重要文献、さらにマル秘扱いであった資料をも収録し、戦前の少年犯罪に関する全領域をカバーした『戦前期少年犯罪基本文献集』の意義は非常に大きいといえよう。

特色

1 旧少年法や感化教育の誕生等、少年犯罪を考えるうえで重要な時期である戦前期に焦点をあて、非行・少年犯罪に関する重要な文献・資料を集成・復刻！

2 感化院、少年刑務所、少年教護院、少年審判所、矯正院（少年院）など、少年達に働きかけるあらゆる機関に関する文献・資料を網羅！さらに、これまであまり参照されることのなかった少年受刑者の告白集も収録。

3 法学、教育学、社会福祉学などの人文社会科学を中心に、精神医学や生物学に関する文献までも広くカバーした構成。分野の枠組みを超え、多角的な視点から少年犯罪へのアプローチを試みる！

4 日本国内はもとより、戦前の朝鮮や樺太の資料までも幅広く収め、日本の少年犯罪の変遷を包括的に捉える！

録容

収内

明治・大正編Ⅰ 全10巻

① 感化修身談

高瀬真卿編（太平堂書房・明治一十七十八年）

少年教誨

千河岸貫一編（新報社・明治一九年）

母と子

何う志たら 子供をよく躾けられるか（前編）
原胤昭著（博文館・明治四二年）

② 東京感化院創業記

高瀬真卿記（東京感化院・明治一九年）

不良少年感化事業

留岡幸助著（警醒社書店・明治三三年）

川越分監幼者統計表

浦和監獄川越分監編（浦和監獄・明治三六年）

生徒統計表

川越児童保護学校編（川越児童保護学校・明治三七年）

③ 未成年犯罪者ノ処遇

小河滋次郎著（磯村政富・明治三六年）

感化術

伊東思恭著（沙村書房・明治三九年）

国民教育少年法制要話

入澤博著（豊文館・明治三九年）

④ 幼年者ノ犯罪及保護ニ関スル調査書（第二）

（明治四二年）

幼年者ノ犯罪及保護ニ関スル調査書（第二）

（大正一年）

明治・大正編Ⅱ 全9巻

⑪ 浦和監獄川越分監少年受刑者ノ統計及処遇一班（大正三年）

浦和監獄編（浦和監獄・大正四年）

⑫ 少年受刑者の処遇及統計彙報（大正三年）

横浜監獄小田原分監編（横浜監獄小田原分監・大正四年）

⑬ 受刑者の告白乙

浦和監獄川越分監少年受刑者 三四〇名の告白集（第一回）
浦和監獄編（浦和監獄・大正四年）

⑭ 少年受刑者の告白（第一回）

横浜監獄小田原分監編（横浜監獄小田原分監・大正四年）

⑮ 少年受刑者の告白（第二回）

横浜監獄小田原分監編（横浜監獄小田原分監・大正五年）

⑯ 浦和監獄川越分監少年受刑者の告白（第二回）

浦和監獄編（浦和監獄・大正五年）

⑰ 感化救済講演集（第七回）

内務省地方局編（内務省地方局・大正四年）

⑱ 盛岡監獄少年監

盛岡監獄編（盛岡監獄・大正五年）

⑲ 未成年受刑者統計（大正六年、第二回）

福岡監獄編（福岡監獄・大正七年）

⑳ 少年受刑者ノ統計及処遇一班

（大正一〇年、第五回）

明治・大正編Ⅲ 全9巻

⑳ 少年受刑者ニ関スル統計（大正一四年）

奈良監獄編（奈良監獄・大正一五年）

少年受刑者ニ関スル統計

岡崎少年刑務所編（岡崎少年刑務所・大正一五（昭和五年）

少年受刑者ノ統計

開城少年刑務所編（開城少年刑務所・昭和四年）

少年受刑者ノ統計（昭和二年度調査）

台北刑務所編（台北刑務所・昭和二年）

㉑ 教育の欠陥が生みたる

犯罪少年の告白と個性調査
黒田源太郎著（広文堂書店・大正八年）

㉒ 犯罪少年並不良少年調査書（第三）

（大正四年）

㉓ 少年の犯罪と其の予防

原房孝著（金港堂書籍・大正一〇年）

愛護の棗（第一輯）

少年保護協会東京支部編
（少年保護協会東京支部・大正一五（昭和元）年）

㉔ 少年犯罪論

中島九八郎著（清水書店・大正一〇年）

㉕ 幼年者ノ犯罪及保護ニ関スル参考書

松山精一著（大正四年）

不良少年之研究

阪口鎮雄著（日本警察新聞社・大正六年）

少年犯罪を多角的な視点から捉え直し、 今後の展望を開くために――

内容見本

『愛の法律と少年審判法』▶
(服部北溟著、二松堂書店発行、大正12年)
【第III期・第26巻収録】

旧少年法施行の数ヶ月後に発行された本書には、「愛の法律」というタイトルをはじめ、当時の旧少年法に対する考え方が色濃く反映されている。著者は少年審判所嘱託であり、少年審判法についても詳述している。

私は名古屋市中区(町名以下特ニ省略ス)に長男に生れて實父母の手にて育てられたが母の戸籍が入らざる爲め庶子となつて居ます明治四十一年濱松市に移轉しました。今迄は父の職業を勤めて去年五月二日より六月二日迄はんこ屋に行き遊びたきが爲め家出をしてくわなく成りたから電信の針金を窃盗をなしてこの監獄に入監して去年の拾二月九日に放免されそれから父と共に働きしが其の月の十六日に製絲工女上りの三十七八歳の女を引入れて妾と爲し父と私と其の女と三人であきないをしたが父があまりに自分をしかるから家を飛びだして六ヶ所にて鶏十七羽を窃盗をなし又入監する事になりました

窃盗一犯 懲役一年 第一五四號
十六年一ヶ月

五六三

▲『少年受刑者の告白(大正4年、第2回)』
(横浜監獄小田原分監編・発行、大正5年)
【第II期・第15巻収録】
「告白」とされているものの、アンケートに対する自由記述を最終的には職員がまとめたもの。戸籍等を参照し、少年達の記憶が一部訂正されている。すなわち、少年受刑者の主観的な世界そのままの表現ではなく、少年受刑者と看守との相互作用に基づいて構成されたものといえる。

精神的機能や生理的素質に特殊の缺陷があるためや、または社會的環境や其他有ゆる事情の悪影響を受けて、所謂不良少年なるものが發生し、近時殊にその數を増しなほ不良行爲もますます一露骨に且つ甚しく悪性を帯びて來た、かゝる現象は健全なる國家の進運上大に考慮すべき重大問題である、これまで斯種少年の發生原因及び豫防矯正等については、社會政策や刑事政策の立場から、各方面の人々によつて、可なり熱心に研究され其結果も發表されて居る、併し一面から云へば、たゞ一部の人が單に興

愛の法律と少年審判法

服部 北溟 著

第一章 少年法の根本精神

一 少年の保護と教養

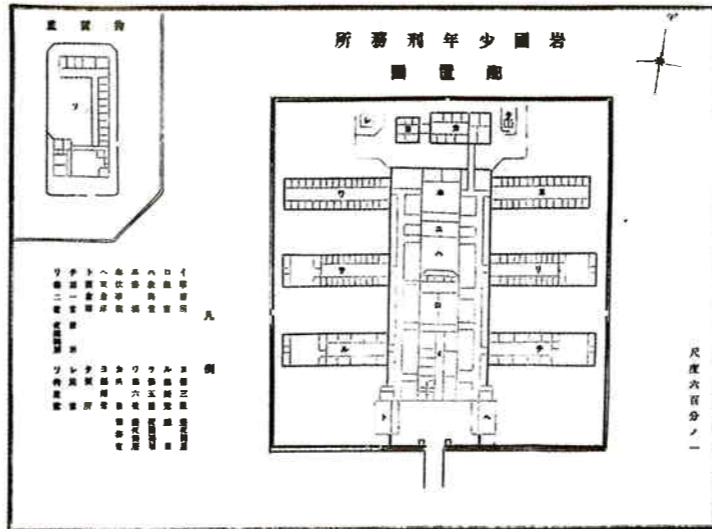
近頃不良少年、不良少年といふことが新聞にも頻りに掛られ、また人々も口癖のやうに言つて居るやうであります、世間の人々にはまだ不良少年といふものの實情は、少しも分つて居らぬやうであります。少年保護問題とか、児童心理とか、犯罪児童とかを、専門として研究して居る方々です、多くは西洋の學者の議論や、著書や、統計を御覽になつて居るのみで、我國の不良少年の實情を十分に調査した結果を基礎として、立論して居る人は尠くやうであります。また適々我國の不良少年に基礎を置いた議論でありましたも、それは概括的のものであつて、一人々々の不良少年を取扱つて、詳細な事情、綿密な心理状態を取調へたものは一層少いやうであります。かやうに専門家の人すら、我國の不良少年の實情に就ては不案内であるのです

第四節 不良少年とは何ぞや

第一章 不良少年に對する悲憤

一七

▲『少年受刑者ノ統計及処遇一班(大正10年、第5回)』(岩国少年刑務所編・発行、大正12年)【第II期・第19巻収録】
岩国少年刑務所は、少年受刑者の属性と処遇に関する紹介を非常に丁寧におこなつたという。所内の見取り図である「配置図」からは、少年達の行動様式を窺い知ることが出来る。



▲『母と子(前編)』(原胤昭著、博文館発行、明治42年)【第I期・第1巻収録】よりイラスト頁
著者の原胤昭は、現在の更生保護施設の原点である出獄人保護団体を創設した一人。本書には自らの活動経験に基づいた、犯罪少年についての考察が示されている。

岩国少年刑務所編(岩国少年刑務所・大正二二年)

▲『少年不良化の経路と教育』(日本愛護心理協會第一編)

中村古峽編(日本精神医学会・大正一〇年)

少年保護制度参考書(抄録)

法曹会編(法曹会・大正一〇年)

▲25 不良少年になるまで

郷津茂樹著(巖松堂書店・大正二二年)

▲26 愛の法律と少年審判法

服部北溟著(二松堂書店・大正二二年)

▲27 不良少年の研究

鈴木賀一郎著(大鏡閣・大正二二年)

▲28 少年犯罪の研究

白井勇松著(巖松堂書店・大正二四年)

▲本シリーズ続刊予定

昭和編I 全8巻 △二〇二一年春刊行予定

●『浪速少年院の教養(第一輯・第二輯)』
(浪速少年院、昭和四・五年)

●『保護統計図集―少年法発布一〇周年記念』
(日本少年保護協会大阪支部編、昭和七年) ほか収録予定

昭和編II 全8巻 △二〇二一年秋刊行予定

●『瀬戸少年院要覽』
(瀬戸少年院、昭和一〇年)

●『少年保護論集―少年法全国施行記念』
(司法保護研究所編、昭和一九年) ほか収録予定

「戦前期少年犯罪基本文献集」は、明治・大正・昭和戦前期の時間軸を貫く包括的なシリーズを目指し、二〇二一年に「昭和編I・II」の続刊を予定しております。

▲『不良少年の研究』
(鈴木賀一郎著、大鏡閣発行、大正12年)
【第III期・第27巻収録】
のちに東京少年審判所長となった鈴木賀一郎の語りは、読む者を飽きさせない。少年審判官は総じて筆の立つ人が多かったという。

戦前期少年犯罪基本文献集

明治・全三期
大正編
全28巻

【監修】 鮎川 潤 (関西学院大学教授)

【体裁】 A5判・上製・布クロス装

【総頁】 約12,300頁

構成	巻数	定価	ISBN	刊行
明治・大正編Ⅰ	全10巻	94,500円(本体90,000円+税)	978-4-284-50132-3	2009年5月
明治・大正編Ⅱ	全9巻	94,500円(本体90,000円+税)	978-4-284-50143-9	2009年6月
明治・大正編Ⅲ	全9巻	94,500円(本体90,000円+税)	978-4-284-50153-8	2010年1月

明治・大正編 全三期・全28巻 揃定価 283,500円(揃本体270,000円+税)

※続刊として「昭和編Ⅰ・Ⅱ」を2011年刊行予定

<おすすめ先>

教育学・社会福祉学・法律学・社会学・心理学等の研究者、
大学・短大・専門図書館、公共図書館など

好評既刊・関連図書

「学校」「職業への移行」をキーワードに、キャリア教育の変遷を捉える！
キャリア教育文献資料集 全Ⅱ期・全20巻・別冊1

- 監修：小杉礼子・藤田晃之
- 揃定価：199,500円(本体190,000円+税)
- 体裁：A5判・上製・総約8,000頁
- (第Ⅰ期)全10巻 定価99,750円(本体95,000円+税)
ISBN978-4-284-30299-9 2009年5月刊
- (第Ⅱ期)全10巻・別冊1 定価99,750円(本体95,000円+税)
ISBN978-4-284-30310-1 2010年4月刊予定

戦後日本の青少年犯罪史を「新聞記事」から展望する！
青少年非行・犯罪史資料 全3巻

- 定価：50,400円(本体48,000円+税)
- ISBN978-4-284-50047-0 2008年2月刊
- 体裁：B5判・上製・総約1,940頁
- 底本：『青少年非行・犯罪史資料』
赤塚行雄編、犀門洋治協力、刊々堂出版社発行 1982-1983年刊
- 特色**
1945年から1979年にかけての青少年非行・犯罪に関する新聞記事を網羅。
今日の若者と犯罪をとりまく状況を歴史的視座から再検証するための必須資料。

次世代に伝える児童福祉の貴重文献・資料を集成！
児童福祉文献ライブラリー2 児童養護 全Ⅱ期・全20巻・別冊1

- 編集委員：網野武博・柏女豊峰・新保幸男
- 揃定価：252,000円(揃本体240,000円+税)
- 体裁：A5判・上製・総約7,000頁
- (第Ⅰ期)全10巻 定価126,000円(本体120,000円+税)
ISBN978-4-284-30164-0 2007年4月刊
- (第Ⅱ期)全10巻・別冊1 定価126,000円(本体120,000円+税)
ISBN978-4-284-30175-6 2008年5月刊

「理論」と「実践」をつなぐ多彩な論稿を通して、
社会福祉の本質をあらためて問い直す！

大阪社会福祉研究 全2回配本・全8巻

- 揃定価：142,800円(揃本体136,000円+税)
- 体裁：A5判・上製・総約3,000頁
- (第1回配本)全4巻 定価71,400円(本体68,000円+税)
ISBN978-4-284-30289-0 2009年4月刊
- (第2回配本)全4巻 定価71,400円(本体68,000円+税)
ISBN978-4-284-30294-4 2010年1月刊予定
- 底本：『大阪社会福祉研究』第1巻第1号～第4巻第9号
大阪社会福祉協議会(現・大阪府社会福祉協議会)編・発行 1952-1955年刊

日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774
<http://www.nihontosho.co.jp>

取扱書店